

令和2年7月18日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和2年度 第4回

おはようございます。久しぶりに従来と同じ流れでフォーラムが開催出来るのはとても嬉しいし、有難いと感じています。

コロナウィルスの感染者がどんどん増えています。今朝の日経新聞を見ると、ジョンズ・ホプキンス大学発表の数字で感染者1380万人、59万人弱が死亡しているという数字が書かれています。少し経てば、ゼロを一つ加える時代が目前に迫っていると感じています。というのは、ペストやスペイン風邪と比較したり、鳥の新型インフルエンザが強毒性だった場合は日本人は64万人が死亡するであろうと10年前に厚労省が公表した数字を踏まえると、世界的にこの数字は一桁足りないと思っています。言い方を変えると、ゼロが一つか二つ増えないと、このウィルスとの戦争は終息状態の共存にならないだろうと感じています。

恒例の質問

では、久しぶりに恒例の質問を致します。コロナが始まったのは昨年の暮れ12月です。ただ、日本の中で話が広がり出したのは、1月からです。ですから今年に入ってからという前提でお考え下さい。

○ 今年に入ってから本日まで、コロナ禍であっても、良い日だなあ・幸せだなあつくづく思う日が数日でも続いている方

結構手が挙がりました。メディアはコロナで不幸な状況ばかり流していますが、私は、前回は申しましたようにコロナのおかげで幸せを感じる、そういう心持が最近では常に起きています。コロナがどんどん世の中を変えてくれるし、自分自身の心持ちも変わると実感しています。

○ 今年に入って、比較的嘘をつくことが少なかった方

皆さん手が挙がりました。それに比べて、安倍内閣は酷いですね。一度嘘をつくともう周囲は忖度する人ばかりだから、官僚がどんどん日本の仕組みを悪くしているし、その先頭に立って旗を振っている人が嘘をつきっぱなしです。厚生労働大臣が受診の目安を発表しましたが、「あくまでも目安であって、判断基準ではありません。世間が私の言葉を誤解し

ているのでは・・・」などと、後出しじゃんけんで人に責任をなすり付けている。政治家が先頭きって嘘をついているという印象を国民に与えているのですから、この国は困ったものだと感じています。

○ 今年に入って、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

人さまから有難うと言われるには、何かしてあげなければいけません。夜寝る時に、今日は有難うと言われたなと思えば良い一日です。言われなかったならば、人さまのために何もしなかったということですから、ちょっと悲しいですね。人さまから何かして貰うだけというのは、悲しい生き方だと私は思っています。

○ 今年に入って、自分自身の身体の手入れをよくやっている方

私の実感ですが、若い時に運動を一所懸命した方で、年配になってもよく運動をする方に結構身体を壊す人が多いのです。なぜかというと、若い時の感覚のまま身体を動かしてしまうから、身体がいうことを聞かなくなるのです。

私の母親は90代で亡くなりましたが、80代の時、夜寝ている時に激痛が走って、背中の骨がつぶれてしまいました。転んだわけでもないし叩かれたわけでもありません。寝ている時に、重力に骨が負けてつぶれてしまったのです。自分では若い時のまま骨はがっちりしていると思っても、実はスカスカになっていた。金属ではありませんが、70年も80年も使っていれば金属疲労も起きます。ですから自分の身体の状態は、やはり自分で自覚しなければいけません。そのためには検査をしておく必要があると思います。

私は毎朝、骨粗しょう症対策として「かかと落とし」をやっています。やり方は、つま先立ちをしてドンと踵を落とすのですが、最近細かいテクニックを使って、つま先立ちをした時にお尻の筋肉をギュッと上に上げ、同時に肛門をギュッと締めます。この運動を続けると、お腹の出ている人は、お腹がへこむと実感します。それに呼吸法が加われば一層効果があると思っています。「かかと落とし」は骨密度を上げるのに大変良い運動療法ということで、最近テレビや雑誌でもよく紹介されています。骨密度を上げるにはテニスをする時の足の使い方が一番良い運動なのだそうですが、一般の人は「かかと落とし」をすることで同じくらいの効果が得られるそうです。

「かかと落とし」も続けているうちにコツを覚えると、最初は10回だったのが50回、100回になり、私は今は200回やっています。ただ、やり過ぎはいけません。自分の身体の手入れは、年をとるにしたがってより丁寧に時間をかけてやっていくことです。若い時であればどんどんやっても構いませんが、50歳、60歳になったら自分の身体の状態を考えながら少しペースを落とすとよいでしょう。70歳、80歳になったら、身体は壊れるものだと感じて、大事に大事にそっと扱うのが良いと思っています。

今朝の朝稽古で山崎先生の棒術の訓練を受けている時、梅川代表幹事は自分の身体をケアしながらほど良く動いておられました。ああいう動きでよろしいと思います。是非、皆さんも自分の身体の手入れの仕方をどこかで自得されるとよろしいでしょう。ピンとこない方は、フォーラムの始まる前に山崎先生の稽古に参加して戴くと親切に教えて戴けるのでお勧め致します。

○ 今年に入って、自分磨きをよくやっている方

頭も身体も含めて、常に自分磨きはした方が良いと思います。手が拳がらなかった方は、どうぞお考え下さい。

○ 昨晚、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

眠る時に、明日はこれが出来てよかったなど、自分なりに腑に落ちて眠りにつくことが出来れば素晴らしいですね。

私は夜寝る時に、以上の6つを自問自答して、納得してから眠るようにしています。もし疲れていて途中で寝てしまった時には、翌朝もう一度思い出して、確認してから起きるようにしています。渋澤栄一さんは寝る前に、今日一日誰に会ったか・何を話したか・どういう約束をしたかを思い出してから寝る生活習慣が身につけていました。渋澤老人の記憶術と呼ばれるものですが、私はそれをそのまま戴いて実践しています。

天下 道有らば、丘 与に易えざるなりと

では、論語の視点に参ります。今日は微子篇6です。

神藤議長の素読は良かったですね。素読をする時は、抑揚をつけて動作を入れながら読んでいくと、その情景が臉の裏に浮かんで来ます。そうするうちに、歌舞伎の見得を切りながら読んでいくような読み方に変わります。久しぶりにそういう雰囲気でも聞きました。

では、解説を致します。

【六】 長沮・桀溺、耦して耕す。孔子 之を過ぎ、子路をして津を問わしむ。長沮
い わ か よ と も の た れ な し ろ い わ こ う き ゅ う な た れ い わ こ れ ろ こ う き ゅ う
曰く、夫の輿を執る者を誰とか為すと。子路 曰く、孔 丘 と為すと。曰く、是は魯の孔 丘
い わ こ れ い わ こ れ し ん し け つ で き と け つ で き い わ し た れ
かと。曰く、是なりと。曰く、是ならば津を知らんと。桀溺に問う。桀溺 曰く、子を誰
な い わ ち ゅ う ゆ う な い わ こ れ ろ こ う き ゅ う と こ た い わ し か
とか為すと。曰く、仲 由と為すと。曰く、是は魯の孔 丘 の徒かと。対えて曰く、然り
い わ どう どう も の て ん か み な こ れ し か た れ と も こ れ か け つ で き い わ し た れ
と。曰く、滔滔たる者、天下 皆是なり。而るを誰と以にか之を易えん。且つ 而 其の人
さ し し た が よ あ に よ さ し し た が し こ う き ゅ う し
を辟くるの士に 従 わん 与りは、豈 世を辟くるの士に 従 うに若かんやと。纒して輟めず。
し ろ ゆ も つ つ ぐ ふ う し ぶ ぜん い わ ち ゅ う じ ゅ う と も ぐ ん お な
子路 行きて以て告ぐ。夫子 憚然として曰く、鳥 獸 は与に群を同じくすべからず。吾

斯^この^{ひと}人^との^{とも}徒^とと^{とも}与^{とも}に^{とも}する^{とも}に^{とも}非^{あら}ず^{とも}して、誰^{たれ}と^{とも}与^{とも}にか^{とも}せん。天下^{てんか} 道^{みち}有^あらば、丘^{きゅう} 与^{とも}に^{とも}易^かえ^{とも}ざるなりと。

長沮の「沮」は沼地、桀溺の「溺」は人間の排泄物です。そういうものを名前に付けているということは、長沮も桀溺も変名（名前を変えている）です。

孔子が葉から蔡の都に戻って来る途中、長沮と桀溺という二人の隠者が田んぼを耕していました。「耦して耕す」とは二人一組で、一人が鋤を打ち込むと、もう一人が土をひっくり返して耕すわけです。

孔子がそれを見て馬車を止め、子路に渡し場はどこか聞きに行かせました。

長沮が聞きました。「馬車の手綱を取っている人は誰だね」

子路が答えました。「孔丘です」

「あれが、魯国の孔丘かね」

「その通りです」

長沮が言いました。「あの物知りの孔子なら、渡し場くらい知っているはずだろう・・・」

仕方なく子路が桀溺に聞いたところ、桀溺が言いました。「お前は誰だね」

子路が答えました。「仲由という者です」

「魯の孔子の弟子かね」

「その通りです」

桀溺が、「洪水が起きて濁流にのまれるように、酷い世の中になってしまっている。そんな時に、いったいお前は誰と共にこの世の中を変えようとしているのだ。選り好みをして人を避けて歩いている孔子と一緒に動くよりは、我々のように世の中がおかしい間は世を避ける人間に付いていった方が良いのではないかね」・・・そう言いながら、種に土をかぶせる手を止めませんでした。

子路が戻って孔子に報告しました。

孔子がしょんぼりと氣落ちして言いました。「私が彼らのように鳥や獣と仲間になれるはずがない。私は世の人々を捨てて生きるようなことはしない。助けるべき人たちと一緒に世の中を変えていくのだ。世の中に秩序が保たれているのならば、私が改革しようとするはずがないではないか」

・・・私以外に誰が世の中をよくすることが出来るのか。天がその使命を私に命じているのだ。もし私が出来なければ、弟子を育てて世の中に送り出すことが私の望みなのだ・・・と孔子は言外に言っているわけです。

ですからここは、慚然と嘆息しつつも胸を張りながら語っている孔子の姿が目につかん

でくると読み方が変わります。

無然としている孔子のイメージは、世に伝わる孔子像とは違っていますね。後世に残っている孔子の絵姿は容貌魁偉、どっしりとして清濁併せ呑むような感じで、とても聖人というイメージではありません。

「滔滔たる者、天下 皆是なり。而るを誰と以にか之を易えん」という部分は、昔も今も変わらない気が致します。安倍内閣が今回の「G o T oキャンペーン」で日本国中にコロナウィルスをばら撒こうとしています。東京都だけ除外をしたら、小池都知事は寝耳に水だと被害者面をしてみせました。

私は「中斎塾通信号外」でも書きましたが、コロナ禍の酷い状況は明確に政府による人災であると思っています。同様に、日本の失われた10年、20年、30年も政府が無策で来た結果ですから、やはり人災だと思っています。

これらについて入門書として紹介書籍を二冊ご用意しました。『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』（速水融著 藤原書店）は、コロナウィルスを見る上で大変参考になります。もう一冊は、『金融恐慌 蔵相高橋是清の四十四日』（高橋義夫著 プレジデント社）です。失われた30年の入門書になるとと思っています。

高橋是清は総理大臣を1回、大蔵大臣を7回務めています。82歳で亡くなったのですが、81歳の時にも危機に陥った経済の立て直しをすべく大蔵大臣を引き受けていますから、世の中のために生涯を捧げ尽くしていると感じられます。残念ながら、今の日本で身をはっている政治家がどれだけいるかと思います。

前回のフォーラムで、岡本理事長が世界恐慌について質問をされました。その頃の日本の世相は、「船頭小唄」の歌詞をもじって「俺は、いつでも金がない。同じお前も金がない・・・」という状況でした。そんな時に高橋是清が金を生み出す人間として登場し、金銭債務の21日間の支払猶予例(モラトリアム)などを行い、金融危機を切り抜けました。昭和2年の頃です。お札を刷るのが間に合わないので、片面だけ印刷された（裏が白紙）お札を銀行に積み上げて、取り付け騒ぎを鎮静化した話は有名です。

そういう事例を見ると、日本という国は何度も何度も金融危機が襲っています。そのたびに困るのは庶民です。時の為政者も苦勞をするでしょうが、命がけで身体をはって事に当たる人がいたがために、何とか乗り越え乗り越えして来ているのだという印象があります。

新聞の見方 ― ヒントとして読む

時事評論では毎回、新聞記事を取りあげて新聞の見方について話をしてきましたが、今後は新聞記事を一つ一つ取り出して比較論評することはやめます。中斎塾フォーラムを始めた頃は読むに値する新聞がいくつかありましたが、だんだん読むに値しないものが増えてきたし、あまりにも偏ってきました。私から見ると、表現の仕方がおかしい、言葉の使い方が違っている、日本政府におもねっている、という印象が強いです。昔で言う大本营発表の記事ばかりです。木鐸と言われたかつての新聞のものの考え方が無くなってしまいました。一番腹が立つのは、金によって動かされています。広告がなんと多いことかと思っています。

ただし、新聞はヒントになりますから、自分でピンときたニュースがあれば調べてみる。新聞はそういう使い方をすれば良いと思っています。

コロナ後を考える

では、本日のテーマ「コロナ禍」について申します。今年の2月に「今年は荒れる年」というテーマでお話をしましたが、いかにも荒れました。もうコロナは絶滅させられないと思います。まあまあ何とかなつたという状況になるまで、3年くらいかかるでしょう。その後は、コロナと共存していく世界になると思っています。

今、一番気にしているのはウィルスの突然変異です。もし強毒性が発生した場合は、外に出られないでしょうし、買い物にも行かれないはずで。ペストが流行した時は、感染した人は家ごと封鎖されて、表には見張り人を政府が雇って、外に出られないようにしました。形は違いますが似たようなことが起きると思います。ですから強毒性が発生した場合に備えて、餓死しないように食べ物・飲み物を備蓄しておく。3か月分くらいは必要でしょう。それから生活必需品も買い増しをしておく必要があります。

更に、コロナと同時に今回のような風水害が襲って来た時も想定しておく必要があります。皆さんは自分の住んでいる場所の最新のハザードマップをご覧になっていますか？大地震や風水害が起きた場合も、外に出られませんから、食べ物・飲み物、生活必需品の備蓄をお勧めします。また、現金を持っていないと物が買えない場合がありますから、3か月分くらいの現金も用意しておくといいでしょう。

今回の日本のコロナ対応は、政府の無策、危機管理の甘さが露呈しました。ヨーロッパやアメリカの感覚で言えば、未知のウィルスが襲来した場合、或いはどこかの国に細菌戦争を仕掛けられた場合に備えて、事前に対策をとっておくことが国の為政者の常識になっています。ですから非常事態だと宣言した場合は、法的に強制力をもった動きが即座にと

れるわけです。

日本の場合、今回の緊急事態宣言は <ちょっと酷い風邪が流行るので、蔓延しないように手当てを講じる> という程度です。最初から法律で非常事態を想定していませんから、強制力などありません。非常事態を想定しないでとっている策ばかりだから、お金の出し方にしても、国民が騒げばそれに合わせて後出しじゃんけんで出しているだけです。ですからこの後始末は大変です。

今回、様々な給付金や助成金がありますが、何だかんだと条件ばかりつけています。無利子・無担保の特別融資などもありますが、私の感覚で言うと嘘つきだと思っています。例えば、2年間据え置き5年間で返済という内容の融資がありますが、よくよく聞いてみると、毎月利息は引き落とされて、払った利息を後から国だか自治体だか分かりませんが公的機関が支払うというわけです。その上、連帯保証人が必要で、保証協会をつけるなら手数料を取られる。どこが無利子無担保なのかと思います。給付金のばら撒き方も、あまりにもずさんでした。

これらをひっくり返して問題なのは、基本的に国のトップに哲学がない。そもそも「援助」とか「支援」という言葉は国民を侮辱していると私は思っています。為政者は、皆が独立独歩で自前で生きていけるように国民を助けていかなければならない。そういうものの考え方をしていないから、上から目線で「出します」となるわけです。残念ながら、この国の根幹にあるトップが哲学について語るのを聞いたことがありません。哲学を前面に押し出す政治家が生まれなければいけないのだらうと思っています。

ということで、今後の日本はどうなるか。失業者が激増します。廃業が続出し、倒産も増えます。もともとコロナで裁判所が機能していなかったのも、倒産したくても倒産出来ない企業が結構あるわけです。当然、自殺者も増えます。結果として、個人の収入はどんどん減っていく。そしてものの値段は上がります。俗に言うスタグフレーション（不況下における物価高）が発生します。

そうなる食べ物・飲み物を自給自足できる人が生き残ります。私は向こう5年くらいの間で、なるべく早く自給自足できる体制を作らなければならないと思って手を打っています。今、我が家は実験的にベランダでナスやキュウリを育てていますが、結構収穫できますね。都会の人は庭がないと言いますが、ベランダでも作れますから、最低限そういう習慣を身につけた方が良いと思います。畑が作れる人は、畑を作ればよいでしょう。それから、買物をする時には消費期限が2022年、23年の日付の食料品を選んで買い増しをしています。生活必需品も同じです。そうするとスタグフレーションに対する対抗が少しは出

来ると思います。

先ほどお話した無利子・無担保融資の据え置き期間が終わると、社会不安は一気に増大するから、値段の上がり方が凄まじいものが出てきます。どういう手を打つかについては、終戦直後を参考にすると良いでしょう。

終戦直後の金融緊急措置令について色々な本に書かれている内容は、まず、新札を発行するので旧札は使えなくなるというアナウンスがかなり流れてから、国民に旧札を銀行に預けさせて、一段落して預金を凍結する…という段取りで進んだということです。しかし昭和21年2月17日付けの新聞を見ると、「本日発表 金融緊急措置令・食糧緊急措置令」とありました。つまり、お金も食べ物もひっくるめて同日付の発表で、発表と同時に実行されていました。次回、実際の新聞記事を持って来て皆さんにお見せします。ですから孫引きは怖いですね。何事も原典にあたらなければいけません。

私は以前から昭和21年2月17日に何が起きたかについてお話していますが、いよいよ世の中に出始めたと感じています。先日発売の『週刊現代』で、「日経新聞も書き始めた預金封鎖の現実」という見出しで、日経新聞が取り上げた記事について解説していました。経済ジャーナリストの荻原博子さんが、当時は財産税が90%だったと書いていました。いずれにしても、年が明けたらごく当たり前に論じられるようになるでしょう。そうなるからでは色々な対策が後手に回るから、年内には自分でどういう手を打てばよいかを考えて実行されると良いと思います。

ちなみに、昭和21年2月17日の金融緊急措置令は私の師匠である木内信胤先生、群馬に関係の深い福田赳夫先生、愛知揆一、池田勇人ら大蔵省の事務次官など数名が密室で会議をして、それほど時間をかけずに一気に決めたのです。そういう点から考えると、今度は前例があるから、また同じことが起きると思っています。

そうなるかと渋澤栄一の新紙幣をいつ発行するか。政府は2024年と発表していますが、情勢次第で変わります。1年前倒しでやると言えばそうなるわけですから、新札発行がいつあるか分かりません。おそらくハイパーインフレの危険性を感じたら、すぐにやるでしょう。向こう5年間で政府は順繰りにスケジュールを組んでいると思っています。

スタグフレーションがある程度までいったら、ハイパーインフレが起きます。渋澤栄一の新札発行を先に発表したがために、新札が発行されるのと時期を同じくしてハイパーインフレが起きますと私は思っています。

渋澤栄一のお札が発行されると聞いた時、私は「最後の1万円札になる」と申し上げた記憶がありますが、もう私の頭の中では渋澤栄一のお札は記念切手になっています。

世の中がこれだけ荒れる、これだけおかしくなりますから、ある程度の財産がある方は、金（ゴールド）を押さえておくことも良いでしょう。現在の金の注目のされ方と、今後の注目のされ方はかなり変わって来ると思います。それから食べ物を作るための土地を用意しておくこと。もし、出来れば他の国にも何か手を打てると良いでしょうし、出来なければドルは押さえておくとも良いでしょう。

但し、基本哲学は「知足」ですから、自分の心の中でほどほどにしておくことが良いと思っています。この際だからといって手に負えないほど借金をして株を沢山買う、ゴールドを沢山買う、土地を沢山買う、そうなるとまっしぐらに地獄行きです。

最終的には、日本は「ほどほど」という民族・国柄だから、コロナについても世界各国と比べると何となくクリアできると思っています。ハイパーインフレが起きたとしても、終戦直後くらいのもので、大勢の人が餓死するようなものとは違います。ロシアでは2000万人が餓死しましたが、日本はそういうことはないでしょう。30年、50年経って今の状況を振り返ると、＜日本という国は、どうして大恐慌を上手に潜り抜けたのか？ ウィルス戦争を潜り抜けたのか？・・・それは日本が「ほどほど」とか「おかげさま」「ありがとう」というものの考え方で進んでいくからだ＞と言われることになる。早ければ20年後くらいに、そういう振り返りになるだろうと思っています。

お時間になりました。これから個人も家庭も会社も、自治体も国も相当荒れる。とんでもない状況が起きて来ます。その時に、チャンスも一緒にくっついて来ています。ですから驚くほど大きくなる企業が日本でも生まれるでしょうし、そこまででなくても、ちょっと上手くいったぞ！という人がもの凄く出てくるでしょう。それには目を見開いて、耳を澄まして、チャンスを逃さないことです。様子見をせず、自分で始末できるくらいのチャンスだと思ったなら捕まえることです。今、そういう時代に入ったと思っています。向こう20年後、お互いニコニコした顔を見られるとよいと思っています。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。